

平成28年度 部局長マネジメント方針

上下水道局経営企画室長 かわ かみ ただ し
川上 忠司



仕事に対する基本姿勢

日本の人口は平成20年の1億2800万人をピークに本格的な人口減少の時代に突入し、本市においても昭和50年の52万人をピークに、その後は減少傾向が続き平成52年には40万人を割り込むと予想されています。人口減少と節水意識の浸透も相まって生活の中で使われる水道水の量は着実に減少し、財源の根幹である水道料金・下水道使用料も同様に減少が見込まれます。

一方老朽化した上下水道施設の更新や大震災等から上下水道施設を守る耐震化の整備等が喫緊の課題であり事業運営は大変厳しい状況にあります。

このような状況の下でも「安全・安心」をお届けできる強靱な上下水道施設と持続可能な上下水道事業経営を目指していかなければなりません。

さらなる経営の一層の効率化を図るなど財政基盤を強化しながら最小の費用で最大の効果が生じるよう工夫を凝らし市民の皆様にご信頼される上下水道事業を進めてまいります。

平成27年度の振り返り

現在、上下水道局は水道部門が若江西新町の水道庁舎、下水道部門が荒本の本庁舎に分散しています。また、上下水道は、災害時に市民の皆さんの生命と生活を守るライフラインとして重要な役割がありますが、災害対応や復旧の拠点となる水道庁舎は耐震性が低いうえに老朽化しています。

平成27年1月から設計に着手した上下水道庁舎整備事業では、建築プランやレイアウト、概算建設費などの建物の基本となる設計に取り組みました。

基本設計の検討のなかで予定事業費の再精査やプランの見直し検討を行ったことから、設計期間の延期も避け得ない状況ですが、少しでも早期に着手・竣工することで、上下水道サービスの効率的な提供と危機管理体制を向上させていきます。

また、平成28～32年度の水道事業の取り組みを明らかとした「水道事業中期実施計画(第3期)」を取りまとめるとともに、人口減少社会の到来を受けた長期的な事業収支の見通しの検討に着手するなど、持続可能な水道サービスの提供に向けた取り組みも進めています。

平成28年度に取り組む重点課題

1 上下水道庁舎の建設に向けて取り組みます

上下水道施設は市民の大切なライフラインとして一日も休むことなく上下水道サービスをお届けする使命を担うとともに、サービス提供にあたっては公営企業として公共性と企業の経済性の両方を発揮しなければなりません。

上下水道局では、荒本の総合庁舎の西隣に新しい上下水道庁舎の建設を進めています。

庁舎整備によって、市役所の業務と一体となった市民サービスの向上や業務の効率化とともに、万一の災害時における応急給水活動や水道・下水道施設の復旧等の拠点となる庁舎づくりをめざしていきます。

平成28年度は、上下水道庁舎の設計に引き続き取り組むとともに、工事着手をめざします。

2 中長期的な経営の基本計画である「経営戦略」策定に取り組みます

本市の水道は昭和7年に給水を開始、高度成長期に急激に整備をすすめた結果、更新時期を迎える施設や耐震性の低い施設が多くあります。

また本市の地形は平坦地が多いことから、水道の給水や下水の排水にポンプ施設が必要となるなど、比較的高コストな条件にあり、類似都市に比較すると料金等が高く、施設更新や耐震化などは遅れている状況にあります。その上に近年の人口減少や生活・産業環境の変化による使用水量の減に伴って事業収入の柱となる料金収入は減少の一途にあり経営環境は厳しい状況です。

上下水道を取り巻く事業環境はすでに変革期に入っています。市民生活を支える重要な役割を担う上下水道が将来にわたって、健全なサービスを持続できるよう、中長期的な経営の基本計画となる「経営戦略」の策定に取り組みます。

